

平成28年

目黒区教育委員会

第8回定例会会議録

(平成28年2月23日開催)

第8回目黒区教育委員会定例会会議録

開催年月日 平成28年2月23日

開催場所 教育委員会室

出席委員	教育委員会委員長	小村 恵子
	教育委員会委員長職務代理者	笹尾 敦夫
	教育委員会委員	中山 ひとみ
	教育委員会委員	木村 肇
	教育委員会教育長	尾崎 富雄

出席職員	教育次長	関根 義孝
	教育政策課長（学校統合推進課長兼務）	
		山野井 司
	学校運営課長	佐藤 欣哉
	学校施設計画課長	照井 美奈子
	教育指導課長	佐伯 英徳
	教職員・教育活動課長	濱下 正樹
	めぐろ学校サポートセンター長	増田 武
	統括指導主事	細田 真司
	統括指導主事	和田 孝
	生涯学習課長	金元 伸太郎
	八雲中央図書館長	大迫 忠義

書記		鈴木 敏由起
		山東 隆博

(午前9時30分開会)

- 委員長 第8回目黒区教育委員会定例会を開会します。本日の欠席職員はございません。署名委員は木村委員です。  
それでは、日程第1を議題とします。

(日程第1 平成28年度における放射性物質への対応について(案)(報告事項))

- 説明員 (資料により説明)
- 委員長 この件についてご質問等ございますか。
- 委員 例えば、この空間放射線が高い基準、毎時0.23マイクロシーベルトとしていますが、これはどのぐらいの量かということです。これをかなり危険だという認識で対応しているわけですが、実際それで、念のためにはという意味ではいいと思うんですが、例えばこれを年間に直すと約1ミリシーベルトになります。  
それはどのぐらいの量かという、福島原子力発電所の事故のときに年間の安全線量1ミリシーベルト以下にするという、基準が設けられましたが、その量で今まで世界中で何か健康障害があったかという、皆無です。  
ただ、放射線の被ばくに関して、厳しい見方をしている人たちがおられますから、その人たちに配慮した基準ではありますけれども、0.23マイクロシーベルトという設定がかなり厳しいかなと思っています。はるかに到達しない現在、それから発生源からのさらなる汚染が考えられないということ、それをやはり区民に発信しながらやっていかないと、いつまでも不安が消えないのではないかなと思っていますので、正しい知識と一緒にこういうことを発信していただければかなと思っています。
- 委員長 その他ご質問等ございますか。  
特にないようですのでこの報告を受けました。  
次に日程第2を議題とします。

(日程第2 目黒区立上目黒小学校の改修工事について(報告事項))

- 説明員 (資料により説明)
- 委員長 この件についてご質問等ございますか。

○委員 今度出入りをする工事車両がシャッター門を通過して、出入りする旨の話がございましたけれども、シャッター門と今現在使っている校庭との間の敷居はどうなっているのでしょうか。

○説明員 工事に際しては、大型車がシャッター門から入るような形でございます。敷居は舗装していますが、車両置き場で一部校庭を使用する部分も出てまいりますので、こちらにつきましても、今、学校と協議しているところでございます。

○委員長 その他ご質問等ございますか。  
特にないようですのでこの報告を受けました。  
次に日程第3を議題とします。

(日程第3 平成27年度小・中学校卒業式祝辞について(報告事項))

○説明員 (資料により説明)

○委員長 この件についてご質問等ございますか。

○委員 大分シンプルになってきたなと感じております。

小学校の19行目ですか、「農業の計画と実行」、プランとその後のアクションですが、「化学における実験や作業計画」と、これはアクションが先に来てプランが後に来ているので、同じように「農業の計画と実行、化学における作業計画や実験と」という順序だと思います。

中学校は、18行目の「感じたことをきっかけに」の「たことをきっかけに」を取って、「感じ」のほうが文章が通じると思いました。

○説明員 今、ご指摘いただいた、小学校ですが、言葉の流れからするとそうだと思いますが、これはインタビューからとったので、そのまま引用させていただきました。計画と実行と合わせるのであれば、ご指摘のとおりかなと思っています。

それから中学校については、「新たな発見があると感じ」といったところを、ここは先に言い回し方のご指摘をいただいたもので、「感じたことをきっかけに」という文言を入れたのですが、どちらがいいか、またご判断いただければと思います。

○委員 中学校の13行目ですが、「宇宙の誕生や物質の起源を解明する鍵になると期待されています」でいいと思います。「多くの研究者から」という文言は取ってもいいような気はします。「鍵になると期待されています」がシンプルでいいのかと思います。

○説明員　　もともとニュートリノの発見というのはとても難しく、宇宙の誕生や物質の起源を解明する、本当に画期的な発見なんだと思いますが、ここも取るか、あるいは「多くの研究者から」ということで、実際の記事からとったところで、「鍵になると期待されています」ということですからつきりはすると思いますので、引き続き検討してまいります。

○委員　　先週申し上げたと思いますけれども、ここは要するに3つ、まず「新たな発見があると感じ」というのがあって、それで「研究を踏まえ」というのと、次に「正しいという信念を貫き」という、この3つが並列されて、長くてよくわからないなというのがあり、「感じたことをきっかけに」というと、ニュアンスが違うと思うので、「感じ」でいいと思います。

次の「積み重ねた研究を踏まえ」と「正しい信念を貫き」と、この2つを両方入れる必要があるのかどうか。

○説明員　　ご指摘を受けまして、「この違いの中に新たな発見があると感じ、自分の進んでいる道が正しいという信念を貫き、研究を進めてきたと述べています」という形に修正をさせていただきたいと存じます。

○委員長　　その他ご質問等ございますか。  
特にないようですのでこの報告を受けました。  
次に日程第4を議題とします。

(日程第4　　平成27年度「いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議」の実施状況について(報告事項))

○説明員　　(資料により説明)

○委員長　　この件についてご質問等ございますか。

○委員　　参加者の数について、気になる場所がありましたので質問させていただきます。

第一中学校区から、資料1に中身が出ているのですが、例えば第一中学校区ですと、第一中学校2年生と、菅刈小学校の6年生、駒場小学校の6年生、これが学年全員が参加するという形をとっておられます。

第七中学校区と第八中学校区は、代表生徒、代表児童のみであるということで、非常に数が少ないです。

このように学年全員を参加させる形と、代表の児童・生徒会役

員だけでこういった会議を開く形があるのはどのような経緯でしょうか。

○説明員

各校区における小・中学校の参加児童・生徒数の数のばらつきでございますが、この会議については、平成17年から18年にいじめによる子どもの自殺が大きな問題となったことを受けて、教育委員会主催でめぐろ子どもフォーラムという形で、本会議場及び議会の委員会室で各小・中学校から集まった代表児童・生徒がいじめ防止に向けた宣言に参加、作成するという取り組みからスタートしております。当然、代表児童・生徒ということですので、児童会、生徒会の役員等が参加をいたしました。

そして22年度まで継続いたしましたが、その後、やはりもう少しより多くの児童・生徒が参加する、そして議論が深まるような実施方法はないかということで、これをまた保護者や地域住民が児童・生徒の声を聞くことにより、地域におけるいじめ問題についての認識を深めようといった取り組みに形を変えて、各中学校区で地域教育懇談会との共催で、いじめを考えるつどいを開催しました。

その後、24年度からは、より児童・生徒がいじめ問題に真剣に取り組むため、学校としての取り組みということにすることで、地域教育懇談会との共催をやめ、学校主催に変更したということでございます。

そして25年度からは、教育委員会の主催ということで、現在の形にいたしました。名称も本委員会で、もう少し主役をアピールする名称に変更したほうが良いという委員のご意見もいただきまして、現在の名称になった経緯がございます。

現在は、各学校の、参加者の人数については各校区に任せております。ただ、回が進むにしたがって、25よりも26、27と、学年全体での参加が実は増えてきています。やはりどちらもメリット、デメリットがあると捉えておりまして、代表生徒ということになると、当然、かなりの話し合い、児童会、生徒会役員、学級委員クラスが参加いたしますので、その場での議論が深まります。当然、代表者が会議に集まりますので、事前学習が極めて重要で、学年、学校として、しっかり取り組みをして、考えをまとめて、まさに代表児童・生徒がそこに持ち寄って、それを深めて、また学校に帰ってという、事前・事後の学習、取り組みが極めて重要になっていきます。

ただ、やはり問題を共有するという点においては、確かに会議もできるだけ数多く参加したほうが、会の雰囲気であるとか、問題を共有するという点においては有効かと思いますが、ただ、どうしても全体になりますと、分科会によっては、意見をまとめることに終始をしてしまって、意見が深まるまではなかなか至らないといったデメリットもあります。

こちらとしては、あくまでこれまでの学校の取り組みを尊重し、特に参加については学年全員でなければいけないというふうには今のところはしておりませんが、今後、先ほど申し上げましたが、来年度の形については、どういう形式がよりよいのかということも含めて、学校と協議をしてみたいと考えております。

○委員

10年前の議場で行った子どもフォーラムと比較すると、現在の形というのは、かなり進展してきたなというふうに私自身も実感しております。そういう中で、近年、NHKのいじめを考えるキャンペーン等に取り組んで、事前学習としては行動宣言を作成し、事後学習として行動宣言を完成させる、そういうプロセスというのは、非常に重要だと思っております。

成果のところは、成果があったのだと思えますけれども、成果と課題は同じ内容の項目で、あくまでも手法についての課題しか触れていないのです。今の形が一番いいということを前提とした課題になっているので、これはこれとして委員会に報告していただいて結構だと思いますが、今後の課題として、これまで課題となっておりましたいじめ問題の未然防止、早期発見、早期対応については、やはり各家庭との連携、つまり保護者等の連携、あるいは関係機関、地域との連携ということも非常に重要な課題として基本にはあるわけで、そういう意見もあった中での課題整理というのも別途、これとは別に行っていただきたいと思えますけれども、いかがでしょうか。

○説明員

まさに会のあり方の根幹にかかわるご指摘かと存じます。先ほど申し上げたように、この子ども会議に至るまでさまざまな経緯、経過があって、今の形になっている。25年度に、それまでこの分科会のほうにも保護者、あるいは地域の方が参加をしてみましたが、その中で当然、目黒の子どもたちは、どういうシチュエーションだろうとしっかり自分の考えを述べられる子どもたちが非常に多いわけですが、やはり一部ですが、地域の方が

会議に前面に出てしまって、なかなか子どもたちの意見を出しにくくなってしまったという一面もございました。

そういった部分を踏まえて、子どもにしっかり任せようという  
ことで、参加する大人の数も制限をし、ただ、その話し合った結果  
については保護者、それから地域教育懇談会等にはご提供申し上げて、  
今の形になっております。

全体会には当然、保護者、地域の方も参加していただいて、実際分科会  
で話し合われた内容等についてはご提示している状況でございますが、  
その家庭と地域との連携を子ども会議の中でどう位置づけるかという  
ことについては、会議のあり方そのものを今後どうするかという、  
極めて重要な課題かと捉えましたので、そこも含めて、来年度の  
会議のあり方等については検討させていただきたいと存じます。

- 委員長            その他ご質問等ございますか。  
                      特にないようですのでこの報告を受けました。  
                      次に日程第5を議題とします。

(日程第5        学校給食使用前食材の放射性物質検査の結果について(報告事項))

- 説明員            (資料により説明)  
○委員長            この件についてご質問等ございますか。  
                      特にないようですので、この報告を受けました。  
                      次に日程第6を議題とします。

(日程第6        インフルエンザによる学級閉鎖の状況について(報告事項))

- 説明員            (資料により説明)  
○委員長            この件についてご質問等ございますか。  
                      特にないようですので、この報告を受けました。

〔 資料配布 ・平成28年4月行事予定 〕

- 委員長            その他何かございますか。  
○説明員            口頭での情報提供が1件ございます。  
                      3月2日、来週の水曜日ですが、エジプト・アラブ共和国のエ



ルシーシ大統領が宮前小学校を訪問することとなりました。同国の大使館は、青葉台一丁目の旧山手通り沿いにございます。

経緯を申し上げますと、先週の火曜日の閣議におきまして、同大統領が公式実務訪問賓客として、2月28日から3月2日の4日間、訪日されることが閣議了解されました。なお、この公式実務訪問賓客ですけれども、宮内庁のホームページを引きますと、外国の元首、王族、行政府の長あるいはこれに準ずる者が実務を主たる目的として訪日することを希望する場合、賓客の地位、訪問目的に照らして政府が公式に接遇し、皇室の接遇にもあずかる賓客ということでございます。

この訪日に当たりまして、大統領側から、日本の学校を訪問したいという希望が伝えられまして、外務省から宮前小学校をお願いしたいとの依頼がございまして、これを受け入れるものとしたものでございます。

具体的な訪問日時は、3月2日水曜日の11時45分から13時までということでございます。当日は、児童が同国の国旗の小旗を持って一行をお迎えした後、大統領は授業や給食の様子を参観されるほか、校内の各施設を視察される予定です。

なお、保護者には今日、明日中に通知文でお知らせをいたしまして、議会には2月26日金曜日の文教・子ども委員会で情報提供する予定でございます。

○委員長 ほかにございますでしょうか。

以上で本日の定例会を閉会します。

(午前10時36分閉会)